

第60回ブレイクスルー研究会議事録

「世界をユカイにするコミュニケーションロボット」開発の 起業精神と次世代に目指すもの」

1. 日時：2018年11月19日（月）18時から20時
2. 場所：政策研究大学院大学 4B研究室
3. 参加者：13名
4. 講師：青木 俊介氏（ユカイ工学株式会社 代表取締役）
5. 内容：

1) 自己紹介

AIについて勉強できるということで東大工学部計数工学科。

2001年、東京大学工学部4年のときに同級生の猪子寿之らとソフトウェア会社チームラボを設立し、CTOに就任し、検索エンジンの開発などを行う。

2002年卒業後。ロボット開発の想いは強く、チームラボを辞め、2007年に鷺坂隆志と共にユカイ工学合同会社を創業する。同時に東華大学信息科学技術学院へ進学。AIの機械学習について学ぶ。2008年PixivCTOに就任。

2011年ユカイ工学を株式会社に組織変更し、最高経営責任者に就任する。

「世界をユカイに変えるスペシャル集団」

受注事業で資金プール。多くのプロジェクトに参画。

2) 製品

BOCCO

コミュニケーションに特化したシンプルな構成のロボット。

製品名の由来は東北弁で子供を意味する「ぼっこ」、スペイン語では口をboccoでありボイスコミュニケーションと掛けている。2014年10月に初公開され、2015年3月にキックスターターで資金調達を行ない発売された。2015年度グッドデザイン賞を受賞。MAMORIOと事業提携を行い、BOCCOを使って忘れ物チェックサービスを行う。

BOCCO emo

感情表現が豊かになるよう稼働部を増やし、音声認識機能を加えた次世代型。

ロボットボイスメッセージ、天気予報、外部情報サービス。

2019年夏に提供開始予定。

iDoll

博報堂と共同開発。スマートフォンアプリから操作することで、ダンス、あいさつ、一発ギャグといった登録動作と音声を再生できる。2016年にはねんどろいどとのコラボレーションモデルも発表された。

konashi

ios 機器から外部のハードウェアを制御する装置。

Necomimi

neurowear と共同開発。装着者の脳波を読み取って猫型の耳を動かし、その動きで装着者の気分を表現するアクセサリ。大ヒットとなった¹⁾。

Qoobo (クーボ)

クッション型セラピーロボット。丸いクッションのような本体に犬や猫のような尻尾が生えている。本体を撫でたり叩いたりすると、やり方に応じて、尻尾が動く。CEATEC JAPAN2017 (2017年10月3日-同年10月6日開催) で発表され、米国メディアパネル・イノベーションアワードにて特別賞「Special Award Gadget Nation Award」を受賞した。2017年からクラウドファンディングによる資金調達を行い、6日間で目標の100%を達成した。2018年度グッドデザイン・ベスト100を受賞¹⁾。

- ・いろいろな企業等との共同開発。1 / 3 が受託。

m u i : 快適空間のインターフェイス、タッチパネルセンサー。

触ると情報、天気予報等、W i f i と接続、

K o m i k u m a : 思いが伝わるぬいぐるみ。ぬいぐるみ同士がつながる。

H u g B u t t o n : ハグをすると電気が消える。(量産前で終了)

- ・またモジュール/OEMの展開

初音ミクとのドッキング (コストの関係で製品化していない)

3) 開発組織

- ・社内で試作品コンペ等。

→4チームに分けて開発。クラウドファンディングで資金。

- ・共同開発

共同開発では、脳波で動くコミュニケーションツール「Necomimi (ネコミミ)」、ハンガー型次世代販売促進システム「チームラボハンガー」、メガネ型デバイス「Telepathy One (テレパシー・ワン)」を開発。

- ・CEATEC等への参画

4) 次のビジョン (5年後、10年後)

- ・アクチュエーターの基盤技術 (モーター等)

- ・音声認識, AI等分野の強化

- ・コミュニケーション主体のソフト分野

→ロボットの魅力 (ロボット=身体がある)

言語以外のコミュニケーション/表現処理

(質疑)

- ・切り口の作り方: 妄想が重要。自分が欲しい等を重視。

等。

(文責: 主査: 旭岡叡峻)